

各 位

2008 年 7 月 29 日

東洋炭素株式会社

〒530-0001 大阪市北区梅田 3-3-10（梅田ダイビル 10F）

（コード番号：5310 東証一部）

東洋炭素「先進カーボンデザイン」共同研究部門を 大阪大学接合科学研究所に設置

東洋炭素株式会社（代表取締役社長：近藤純子、以下東洋炭素）は、先進カーボンの実用化に向けた総合的な研究開発を基礎から実用化まで一貫して取り組む体制を整備するべく、このたび国立大学法人大阪大学（総長：鷲田清一、以下大阪大学）と連携し、大阪大学に東洋炭素「先進カーボンデザイン」共同研究部門を設置することといたしました。

カーボンは黒鉛、ダイヤモンド、アモルファス等の多様な構造と形態を有する伝統的な素材として機械、電気、交通等の幅広い分野で使用されるとともに、半導体や太陽電池生産、原子力発電等に使用されている先端材料でもあります。また近年、フラーレンやナノチューブ等ナノサイエンス・ナノテクノロジーを代表する未来材料として、活発な研究開発がグローバルに展開されています。

その一方で、我々を取り巻く環境は、地球温暖化の加速、エネルギー・資源問題の深刻化と年々厳しさを増しております。また、新興国の目覚ましい発展により、産業・技術面においても日本の優位性は揺らぎつつあります。これら直面する課題を、カーボンに秘められた無限の可能性の追求を通じて打開するためには、社会的要請と学術的視点の両面から広い視野に立つとともに、ナノスケールでの異種元素・材料との結合や複合化を創造的にデザインし、製造する新規プロセスの開発が不可欠となります。また、それらを総合的に取り組める人材の育成がグローバルに求められています。

これらの実現に向け東洋炭素は、異種材料の接合やナノサイエンス・ナノテクノロジー分野で優れた実績を有し、国際的な人材育成を図っている大阪大学接合科学研究所（所長：野城清、以下接合科学研究所）と連携し、2008年10月1日を目処に共同研究部門を設置することといたしました。本共同研究部門では、招へい教授（東洋炭素から派遣）、特任准教授、招へい助教（東洋炭素から派遣）および研究員等総勢6名の研究スタッフに加え、接

合科学研究所の兼任教授2名の支援を得て、セラミックスや金属とのナノレベルでの複合化により、耐酸化性や耐摩耗性、軽量高強度、絶縁性、新規機能性を付与する等、カーボンの欠点を克服し長所を伸ばす先進カーボン材料の実現を目指し、資源・エネルギー・環境問題に貢献する新製品への応用を図ってまいります。なお、本共同研究の期間は当面3年間を予定しております。

東洋炭素は高機能カーボンの世界的なリーディング・カンパニーとしてさらなる成長を志向しておりますが、特に「環境 (Environment)」・「エネルギー (Energy)」・「エレクトロニクス (Electronics)」の「3E」を成長のキーワードとして、独創的でオンリー・ワンの製品と技術を提供していくことを基本理念としております。今後もこの基本理念に則りつつ、このたびの産学連携の絆を最大限に活かして、地球環境保護、省エネルギーおよびエネルギー革新等に貢献を果たしてまいります所存です。

以 上

本件に関するお問合せ先

東洋炭素株式会社

広報・IR担当 小嶋・三宅

TEL : 06-6451-2114